

No9

下野市立石橋中学校



# 校長室だより

スローガン ～生徒も先生も、自ら輝く学校～

目指す学校像

『未来を、たくましく生き抜ける生徒』の育成  
キーワード「自立・貢献・創造」令和5年11月8日(水)  
発行者 田熊利光

石橋中ホームページQRコード→

## 栃木県音楽祭中央祭

10月23日(月)・24日(火)に栃木県音楽祭中央祭が開催されました。23日(月)には合唱の部が行われました。惜しくも金賞は逃しましたが、応援にいられていた保護者の方々が、感動の涙を流されるほどの素晴らしい合唱でした。翌日は、合奏の部がありました。結果は銀賞でしたが、吹奏楽部の合い言葉「一音入魂」を感じる素晴らしい演奏でした。大きな舞台での演奏は、貴重な体験になったと思います。

## 県新人大会の成績 (個人戦 敬称略)

11月4日(土)～5日(日)に柔道部の県新人大会が行われました。杉山君が準優勝という素晴らしい結果を残しました。開始早々「一本」でもおかしくないようなポイントを奪ったものの、最後は逆転負けを喫しました。しかし、素人からはじめて県の決勝に立った選手は、今までほばいないので快挙だと思います。その他のメンバーも、十分に実力が付いてきたのが分かる戦いぶりでした。

男子団体戦 5位入賞	女子団体戦 2回戦敗退
<男子個人戦> 50kg級 鹿沼 将虎 2回戦敗退 野澤 和生 2回戦敗退 60kg級 杉山 翔生斗 準優勝 佐藤 一紀 1回戦敗退 90kg級 山口 力玖斗 1回戦敗退 90kg超級 渡邊 蓮士 第3位	<女子個人戦> 横関 心結 第3位 大関 美緒 第5位 磯 結奈 第5位 高橋 侑愛 2回戦敗退

## ◎R5年度「全国学力・学習状況調査」の結果(3年生)

	国の正答率との比較
国語	○
数学	+
英語	○
話すこと(英語)	+

○ : 2.0以上高い    + : 0～1.9高い

- ◎3教科(英語の「話すこと」調査も含めて)とも、全国と比較し、正答率が高かった。  
 ○国語で特に国との比較で高かったのは、思考・判断・表現などの「書くこと」の正答率で、5.2ポイント高い。  
 ○数学は、「関数分野」の正答率が、全国と比較し、4.0ポイント高い。  
 ○英語は、「読むこと」の領域の正答率が、全国と比較し、3.9ポイント高い。

## 【生徒質問紙の結果】 全国学力・学習状況調査」の生徒質問紙(3年)

全体として、とてもいい結果だった。

- 質問 自分には、よいところがある。「当てはまる」の回答が、石中 48.9 (県 40.2、国 37.2)
- 質問 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。  
 「当てはまる」の回答が、石中 61.7 (県 48.5、国 40.0)
- ◎質問 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。  
 「当てはまる」の回答が、石中 62.2 (県 50.8、国 43.7)

○質問 人が困っているときは、進んで助けていますか。

「当てはまる」の回答が、石中 51.1 (県 46.1、国 38.4)

◎質問 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。「当てはまる」の回答が、石中51.1 (県40.0、国34.3)

→石橋中が県や国を大きく上回る項目です。石橋中では、「主体的で対話的で深い学び」を実現するために、質の高い課題を設定して、グループ活動による対話と協働を取り入れた「学び合いの授業」を推進してきました。その成果が出ていると感じます。実際に、授業の様子をご覧になった大学の先生や他の学校から研究授業を参観に来られた先生方から「男女の壁がなく、仲間と支え合いながら課題解決に向けて真剣に対話している姿に感動します。」という言葉をよくいただきます。課題はグループ活動や対話が苦手という生徒もいることです。そこで生徒の皆さんに伝えたいことがあります。

これからの社会は、変化が激しく予測困難で、最初から正解がある時代ではなくなります。仲間と助け合って協力しながら、よりよい解決策を考えなければなりません。場合によっては、一から様々な「モノやコト」を創造することが求められます。そういう時代に生きる皆さんは、是非、人と対話したり、協働したりすることを今から身につけてほしいのです。

また、自立するためには、「人に頼れること」も重要です。社会に出たら、大学での学びも通用しないようなことがたくさんあります。その時に、大切なのは、「すみません。分からないので、教えていただけますか。」と人に頼ることです。本当は分からないのに、恥ずかしいから人に聞けなくて、それで失敗をする人が意外に多いのです。「聞くは一時の恥、聞かぬは末代までの恥」という言葉を、私は小学校4年年の時に、担任の先生から教えていただきました。先人は、私たちに「聞く」ことの大切さを教えてくれています。「人に聞く・人に頼る」が自立の一步ということをし、しっかりと理解してください。また、聴かれた人は、友達が理解できるように説明することで、自分の理解も更に深まるという効果があります。ですから、聞く方も得。聞かれて説明する方も得。これを「互恵的な学び」と言います。発言が苦手な人もいると思います。私は無理に発言しようとしなくていいと思います。私は発言するよりも、人の話を真剣に聞くことの方がより重要だと考えます。人の話を聞くことが「学び」の基本だからです。様々な人の話を謙虚に聞き、多様な視点で物事を考えることが「深い学び」に繋がります。生徒の皆さん、仲間が困っていたら、声をかけて支えてあげましょう。人間は誰でも得意・不得意があります。そういう所をお互いに補い合ってよりよい社会を創造するのです。

自分さえ良ければという利己主義的な考えではなく、他者の幸せのためにという「利他主義的」な考え方が、未来をより良いものに変えると私は思います。授業でも、行事でも、部活動でも皆さんが、大きな成果を出しているのは、まさに、仲間を大切に、自分はお互いのために、どう貢献できるかを考えて行動できる人が多いからだだと思います。

▲質問 友達関係に満足している。「当てはまる」の回答が、石中 52.8 (県 58.3、国 55.3)

▲質問 今住んでいる地域の行事に参加している。「当てはまる」の回答が、石中 6.1 (県 12.1、国 12.2)

→地域のお祭りやイルミネーションに参加している生徒は多いと思いますが、結果は低く出ています。地域の行事という意味をどう捉えたかで結果が低く出たかもしれません。

◎R5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果

	県の正答率との比較
国語	○
社会	—
数学	▲
理科	▲
英語	—

○：2.0 以上高い      +：0～1.9 高い  
—：0～1.9 低い      ▲：2.0 以上低い

## 生徒の皆さんへ

一番大切なことは、テストをやりっぱなしにしないことです。テストは、あくまでも現時点での自分の実力(知識の定着度合い)を知るためにあるわけです。自分の弱点を知り、そこを重点的に「学び直し」をして補強することが、学力向上に繋がります。たとえテストの結果が良くなくても落ち込むことなく、目の前の課題から目を背けずに、日々自分の目標に向かって努力する姿勢を大切にしてください。

石中生なら分かると思いますが、どうせやるなら「楽しんでやること」が、自分の力を最大限に発揮するポイントだと思います。やらされ勉強では効果はありません。自分の目標達成のため、自分がやりたくてやる勉強に変えましょう。必ず大きな成果となって自分に返ってきますよ。楽しみですね。